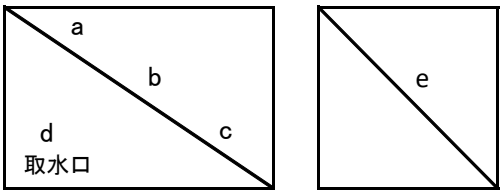
学校環境衛生検査表
水質（水泳プール）

学校長様

検査（採水）年月日	年　月　日（　）		時　刻	時　分		
天　候		気温・水温	気温　℃	水温　℃		
検査（採水）時における遊泳者数	人	使用開始（換水）以後における延遊泳者数	人			
検体の採水場所	 メインプール　腰洗槽	長方形のプールではプール内の対角線上のほぼ等間隔の位置で、水面下約20cm付近の3か所以上。遊離残留塩素は上記及び循環ろ過装置の取水口付近の4か所以上。				
塩素剤の種類	□ 次亜塩素酸Na液　□ 次亜塩素酸カルシウム　□ 塩素化イソシアヌル酸 使用薬剤名・商品名（　）					
使用薬剤/注入方法/保管場所	（プール） □ 散布　□ 投入　□ 点滴	（腰洗い槽） □ 散布　□ 投入　□ 点滴	薬品保管場所			

検査項目	判定基準		採水場所 a	b	c	d	e（腰洗い槽）	
遊離残留塩素	0.4mg/L以上であること。また1.0mg/L以下であることが望ましい。 腰洗い槽は50～100mg/Lであること。							mg/L
PH値	PH5.8～8.6					―	―	PH
濁度	プール	2度以下（水中で3m離れた位置から側面が明確に見える）				―	―	度
	ろ過器出口	0.5度以下（0.1度以下が望ましい）						度
（$KMnO_4$消費量）有機物等	12mg/L以下					―	―	mg/L
総トリハロメタン※	0.2mg/L以下が望ましい					―	―	mg/L
大腸菌	検出されないこと					―	―	
一般細菌数	1mℓ中200コロニー以下					―	―	コロニー

考察

□ 1. 遊泳してもさしつかえない。
□ 2. 塩素消毒を的確に実施することが必要である。
□ 3. 循環式浄水装置（含む塩素消毒剤）を的確に運転することが必要である。
□ 4. オーバーフローするように水を補給することが必要である。
□ 5. 全換水することが必要である。
□ 6. 水質が不良なので再検査を行うこと。

※プール水を1週間に1回以上全換水する場合は、検査を省略する事ができる。

検査担当学校薬剤師氏名：